

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 2 部門第 5 区分
 【発行日】平成 17 年 8 月 4 日 (2005.8.4)

【公開番号】特開 2000-6610 (P2000-6610A)
 【公開日】平成 12 年 1 月 11 日 (2000.1.11)
 【出願番号】特願 平 10-328023
 【国際特許分類第 7 版】

B 6 0 B 35/18
 F 1 6 C 19/18
 // B 6 0 B 27/02

【F I】

B 6 0 B 35/18 A
 F 1 6 C 19/18
 B 6 0 B 27/02 C

【手続補正書】

【提出日】平成 17 年 1 月 14 日 (2005.1.14)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 0】

前述の様に構成し、上述の様に組み立てる、本発明の他物品を結合した転がり軸受ユニットの実施の形態の 1 例であるナックル一体型転がり軸受ユニットが、上記ハブ 4 に支持した車輪 8 (図 1 1) を、懸架装置に対して回転自在に支持する作用は、前述の図 1 1 に示した従来構造の場合と同様である。特に、本発明のナックル一体型転がり軸受ユニットによれば、ナックル 1 6 a と外輪 1 a との嵌合部分の強度を確保できる。即ち、上記円輪部 2 3 の軸方向長さ L_2 と等しい、この嵌合部分の軸方向長さは、上記支持口 1 7 a の外端開口周縁部に前記長円筒部 2 4 を設けた事により、上記支持口 1 7 a の近傍から外れたナックル 1 6 a の厚さ T よりも大きい ($L_2 > T$)。従って、ナックル一体型転がり軸受ユニットの大幅な重量の増大や大型化を招く事なく、上記嵌合部分の強度を確保して、上記車輪 8 の支持強度を十分に確保できる。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 5】

次に、図 2 は、やはり請求項 1、2 及び請求項 5 ~ 7 に対応する、本発明の実施の形態の第 2 例を示している。上述した第 1 例が、駆動輪 (F F 者の前輪、F R 者の後輪、4 W D 車の全輪) を支持する為の転がり軸受ユニットに本発明を適用していたのに対して、本例の場合には、非駆動輪 (F F 車の後輪、F R 車の前輪) を支持する為の転がり軸受ユニットに本発明を適用している。この為に本例の場合には、内径側軌道輪部材であるハブ 4 a は、全体を円筒状とせず、内端部 (図 2 の右端部) にのみ円筒部 3 2 を形成している。そして、上記ハブ 4 a の中間部外周面に内輪軌道 6 を直接に形成すると共に、このハブ 4 a の内端部外周面で上記内輪軌道 6 から外れた部分に内輪 5 a を外嵌し、この内輪 5 a の外周面に内輪軌道 6 a を形成している。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0026

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0026】

又、上記円筒部32の内端部で上記内輪5aの内端部から軸方向内側に突出した部分を、直径方向外方に向け全周に互にかしめる事により、かしめ部39を形成している。そして、このかしめ部39と上記ハブ4aに設けた段部33との間で、上記内輪5aを挟持固定している。又、この内輪5a及び上記ハブ4aとの外径側に配置して、これら内輪5a及びハブ4aを回転自在に支持する外輪1bの内端開口部に、有底円筒状のカバー37を締め嵌めにより内嵌固定している。又、上記外輪1bの外端部内周面とハブ4aの中間部外周面との間にシールリング20を設けて、上記カバー37と共に、転動体7、7の存在する空間部分を外部から遮断している。尚、上記外輪1bの内周面で内端寄り部分に、段部34を全周に互に形成して、上記カバー37の外周縁部に直径方向外方に突出する状態で全周に互に形成した折り返し部40の外側面を、上記段部34に突き当てている。これにより、上記カバー37の軸方向位置に互に決めるを図っている。